

11/1

**お薬手帳配布式&サイエンス教室**  
新潟薬科大学による災害支援イベント(保内小学校)



▲人体模型を使ってカラダの中をのぞいてみよう



▲薬と飲み物の化学反応を実験

8月4日に新潟薬科大学構内で実施した子ども向けのサイエンス教室に、保内小学児童3名が豪雨水害の影響で参加できなかったことを受け、同大学では、災害支援イベントの一環として、保内小学校を訪れ、全児童にお薬手帳をプレゼントしました。また、5年生を対象にサイエンス教室「人体と薬の不思議」として、人体模型を使って体の仕組みを学んだほか、お薬と3種類の飲み物の化学反応実験を行いました。

同大学の中川沙織准教授は、「8月の豪雨水害で被災し、まだ生活に支障が出ているご家庭もあるとお聞きしていますが、子ども達が実験教室を通じて、少しでもサイエンスに興味を持つきっかけになれば幸いです。被災された皆様が一日も早く普通の生活に戻れることを願っています」と話していました。

11/5、6

**みんなが待っていた地域のイベント**  
さんぽく祭(さんぽく会館、山北総合体育館)



▲大勢の方にご来場いただきました

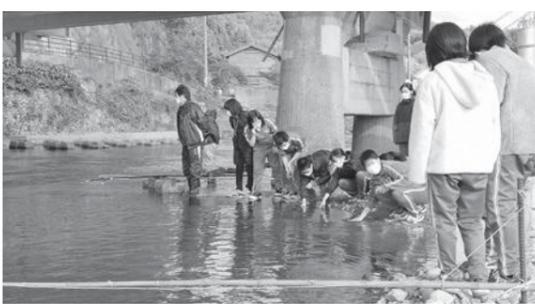
山北地域の「さんぽく祭」が2日間にわたり開催され、約1,500人が訪れました。

地域に愛されるこの祭は、住民の皆さんの作品展示や小学生のダンスなどの演芸を楽しむことができ、出店ブースでは山北の美味しい食を堪能できます。

3年ぶりの開催となった「さんぽく祭」。訪れた人は、お腹も心も満たされ、笑顔あふれるひと時を過ごしていました。

11/9

**4年前に稚魚を放流、帰ってきた鮭に歓喜**  
伝統漁「コド漁の見学」(山北中学校)



▲竿を使ったコド漁見学

山北中学校2年生が大川で行われる伝統漁法「コド漁」を見学し、漁師さんから説明を受け、実際に仕掛けにも触れながら体感しました。

4年前には稚魚の放流も経験した生徒たち。「放流しても戻ってくる鮭は少ないと聞いているが、大川に戻ってきてくれてうれしい」と、川面で鮭の魚影を見つけ、話していました。

大川のコド漁は12月下旬まで。約8,000尾の漁獲を予定しています。

10/29、30

**地域復興と関係人口の創出**  
ハロウィン&かかし祭(道の駅神林「穂波の里」)

災害復興のチャリティーと関係人口創出・拡大を目的に「ハロウィン&かかし祭」が開催されました。

地域外の人からも工夫を凝らしてデザインされたカボチャやかかしの出展もあり、栽培したカボチャの重さを競うコンテストでは、訪れた方は大きなカボチャに驚いた様子でした。また、会場には8月3日豪雨の災害復興に役立てようと募金がめが置かれ、集まった募金は社会福祉協議会を通じて復興支援の活動に役立てられます。



▲地元の中学生在が加工したカボチャのランタン

11/1

**地域の名産・柿の収穫体験**  
朝日みどり小学校柿の収穫体験(関口地内)



▲どの柿が大きいか競い合う児童たち

動画あり

関口集落の名産である柿について、朝日みどり小学校の児童が歴史から生育まで学んできました。

今回はいよいよ収穫作業。籠を肩にかけ、収穫した柿を計測しながら、サイズごとに選別し、楽しみながら作業体験を行っていました。

関口集落出身の児童は、「大きい柿がたくさんあってすごい」と誇らしげな表情を見せていました。

11/1

**除雪作業への決意と安全を祈願**  
村上圏域合同除雪出動式(村上道路ステーション)



▲生活道路を守る機械のデモンストレーション



▲受注者に安全を祈願したゴールドキーを贈呈

これから迎える雪のシーズンの道路交通確保と、将来にわたる除雪オペレータの担い手確保を目的に、国、県、村上市、関川村からなる村上圏域合同の「合同除雪出動式」が開催されました。

式には神納小学校4年生の児童も参加し、昼夜を問わず24時間体制で地域の道路を守ってくれる除雪オペレータを「事故の無いように気を付けて作業をしてください」と激励し、作業の安全を祈願し、ゴールドキーを手渡しました。

圏域の受注者を代表して福田道路(株)西田さんは「近年の降雪は急激に短時間で雪が降る傾向にある。地域で働き暮らす住民のため、発注者と連絡を密にし、除雪に関わる職員、オペレータが一丸となり、圏域の除雪を無事故で作業することに全力を捧げます」と決意を述べました。

式の後には、参加してくれた児童を対象にした除雪機械の体験学習会も行われ、通学路を守る機械の数々に触れる貴重な経験ができました。